



特集

# はじめての 箱庭

「箱に砂を敷いて、その上にミニチュアを自由に置き、情景を作る」

て楽しむ『箱庭』が流行るなど、ミニチュアの景色を作る文化は脈々と続いてきました。

砂遊び療法」と呼ばれていますが、河合氏が日本に導入する際に「箱庭療法」と意訳したのは

箱庭に、また新たな歴史の一ページが加えられます。

箱庭について一言で説明するなら、それで事足りてしまいますが、日本での箱庭の歴史は古く、鎌倉時代、金閣寺・銀閣寺の庭園設計の際に、浅い木箱にその原型を作ったのが始まりとされています。

戦後再び箱庭が注目されるようになつたのは、心理学者の河合隼雄氏によつて『箱庭療法』が日本に導入されてからです。

その時の印象が大きく影響したのだろうと思われます。

平成二十三年度に改定された小学校・中学校「教材整備指針」に特別支援教育枠が設けられ、その例示品名に《箱庭》が加えられました。今後、特に学校現場では、子どもたちが箱庭に触れる機会も増えることでしょう。日本人が古くから

『名の篠』『芸術としての『益景』(益の『』)』は、『益景』などのが発展し、江戸時代後期から明治時代にかけては、小さな箱の中に景観を作つ

の娘は見た日本的新聞は假でいい!」と思つたが、  
言われています。

して新たに登り止められ 現在 センヒドの場面で大いに活用されています。

から新しくなった『新處』という遊びを通して、子どもたちが自分を自由に表現し、豊かな心が育まれることを願つてやみません。